

学校再編検討結果報告書
【白須賀地区】

令和8年3月
湖西市教育委員会

目次

はじめに	1
第1章 これまでの検討経緯	2
1. 湖西市立学校教育施設適正化検討委員会報告書（令和4年3月）	2
(1) 単学級における児童生徒数について	2
(2) 学級数について	3
2. 湖西市立小中学校再編方針（令和5年5月）	4
(1) 児童生徒数の推移	4
(2) 令和4～5年度実施の子育て世代のアンケート結果について	6
第2章 学校再編検討の流れ	7
(1) 検討する項目	7
(2) 検討の方法	7
第3章 再編案の再検討	10
1. A案の概要	10
2. B案の概要	11
第4章 住民意向の確認	12
1. 白須賀地区全世帯アンケート調査	12
(1) 調査実施概要	12
(2) アンケート調査結果	13
2. 白須賀地区内小中学生アンケート調査	18
(1) 調査実施概要	18
(2) アンケート調査結果	18
第5章 学校再編検討委員会の意見	21
1. 今後の小中学校の在り方について	21
2. 市及び教育委員会に対する要望事項等	22
3. まとめに代えて（委員長談話）	23
おわりに	25

資料編

1. 過年度報告書【抜粋】	資料編- 1
2. アンケート調査用紙	資料編- 7
3. 白須賀地区学校再編検討委員会	資料編-13
4. 保護者、地域住民との意見交換会	資料編-14

はじめに

全国的に少子化が進んでおり、湖西市（以下「本市」という。）でも直近40年ほどで児童生徒数が半減しています。現在の小中学校は、保護者や地域の方々の協力を得ながら、学校運営を工夫することで、子どもたちの健やかな成長を促すことができる環境が維持されています。しかし、少子化の波により、子どもたちのコミュニケーション能力の育成、多様な考えから学びを深める機会の保障など、これまでの教育環境の維持が懸念されています。

湖西市教育委員会では、急激な少子化の進行を考慮し、令和3年6月に学校教育施設適正化検討委員会（以下「適正化検討委員会」という。）を設置しました。適正化検討委員会では、子どもたちにとってよりよい教育環境を充実させることを基本的な考え方として、その結果を令和4年3月に報告書にまとめました。その後、湖西市教育委員会では、この報告書を基に、令和4年5月から、保護者や地域の方々を対象に「これからの小中学校について意見交換会」を実施し、意見交換を行いました。そこでの意見や子育て世代を対象にしたアンケート結果等を踏まえ、本市として、今後のよりよい教育環境の実現に向けた「湖西市立小中学校再編方針」を令和5年5月にまとめました。

以上の状況を踏まえつつ、白須賀地区において学校再編検討委員会（以下「再編検討委員会」という。）を立ち上げ、学校再編基本計画を策定することを目的として議論を進めてきました。しかしながら、保護者や地域の方々との意見交換を通じて検討を進める中、少人数・小規模の中で学ぶ環境に不安の声がある一方で「白須賀中学校を残してほしい」という意見や「再編方針について再検討してほしい」という意見が多いことを確認しました。このため、「中学校を存続する」という選択肢を加えたアンケートを実施し、幅広いご意見を伺った上で、白須賀地区の学校再編について改めて検討を行いましたので、その結果を報告書としてまとめます。

第1章 これまでの検討経緯

これまでの検討委員会や保護者・地域住民との意見交換会において、小規模校となるデメリットを踏まえて、一定規模の確保を目指す学校再編のあり方を検討してきました。

1. 湖西市立学校教育施設適正化検討委員会報告書（令和4年3月）

「湖西市立学校教育施設適正化検討委員会報告書（令和4年3月）（以下「適正化検討委員会報告書」という。）」では、子どもたちにとってよりよい教育環境を充実させることを基本的な考え方として、小規模の小中学校（東小学校、知波田小学校、白須賀小学校、湖西中学校、白須賀中学校）の望ましい児童生徒数、学級数について以下のように取りまとめています。

（1）単学級における児童生徒数について

①小規模小学校（東小学校、知波田小学校、白須賀小学校）

令和3年度において、白須賀小学校の児童数はほとんどの学年が単学級、1学級30人前後となっており、令和9年度の推計では、全ての学年が単学級となるとされています。小学校において全ての学年で単学級だった場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数について、検討した結果、以下のようにになりました。

表：本市における小規模小学校の望ましい教育環境

教育環境	理由【抜粋】
【1学年の児童数】 20人以上	<ul style="list-style-type: none">・集団活動によって、他者との相違点に気付きながら、社会に出るために必要な資質・能力を身につけていくことができる。・人数が少なすぎると、人間関係の修復が難しくなってしまった場合に、逃げ道がなくなってしまう。

②小規模中学校（湖西中学校、白須賀中学校）

令和3年度では、白須賀中学校で3学年全てが単学級になっており、令和15年度の推計においても、白須賀中学校で3学年全てが単学級です。中学校において全ての学年で単学級だった場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数について、検討した結果、以下のようにになりました。

表：本市における小規模中学校の望ましい教育環境

教育環境	理由【抜粋】
【1学年の生徒数】 30人以上	<ul style="list-style-type: none">・切磋琢磨しながら学校生活を送り、心身を大きく成長させることができる。・人間関係に問題が生じた場合でも、新たな人間関係を築きやすい。

(2) 学級数について

①小規模校（東小学校、知波田小学校、白須賀小学校、湖西中学校、白須賀中学校）

全ての学級が単学級の小規模校においては、近い将来、小学校で20人以上、中学校で30人以上を維持することが難しくなっていきます。そこで、1学年でどれくらいの学級数が子どもたちにとって望ましい教育環境として必要であるのかについて検討した結果、以下のようになりました。

表：本市における小中学校の望ましい教育環境

教育環境	理由【抜粋】
【1学年の学級数】 <u>2学級以上、</u> <u>できれば3学級</u>	<ul style="list-style-type: none">・人間関係に大きな問題が生じた場合には、子どもにも、保護者にも居場所がなくなってしまう可能性が高い。・学級ごとに競い合う学校行事を通して、協力することの大切さを学ぶことができる。

2. 湖西市立小中学校再編方針（令和5年5月）

再編方針においては、将来的に1学級15人以下となった場合のメリット、デメリットを比較した結果、デメリットの方が大きくなると考えました。

したがって、小規模校の小学校、中学校では、何らかの手法を用いて適正配置の検討が必要であることから、東小学校、知波田小学校、白須賀小学校、湖西中学校、白須賀中学校において、どのような配置が望ましいのかについて基本的な方針をまとめることとしました。再編方針策定当初は、児童生徒数の推移、アンケート調査結果を踏まえると、白須賀地区では「小学校は現状のままとし、中学校からは、近隣の中学校へ通うことにする。」ことが、今後の方向性として示されました。

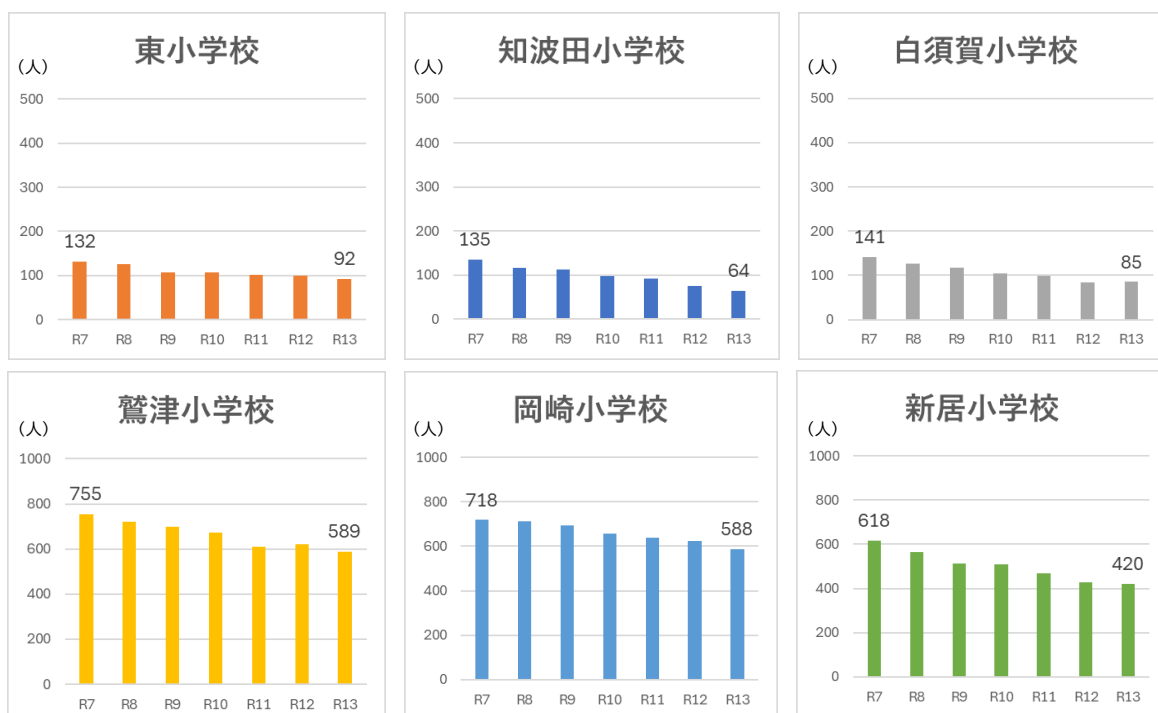
（1）児童生徒数の推移

①小学校児童数の推移（見込）

（人）

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
東小学校	132	125	108	108	102	100	92
知波田小学校	135	117	113	97	93	75	64
白須賀小学校	141	126	118	104	99	84	85
鷺津小学校	755	720	698	673	611	621	589
岡崎小学校	718	712	694	657	640	625	588
新居小学校	618	565	513	510	470	428	420

※再編方針で提示した児童数から R7. 5. 1 現在の児童生徒数と未就学児数による推計値に更新しています。

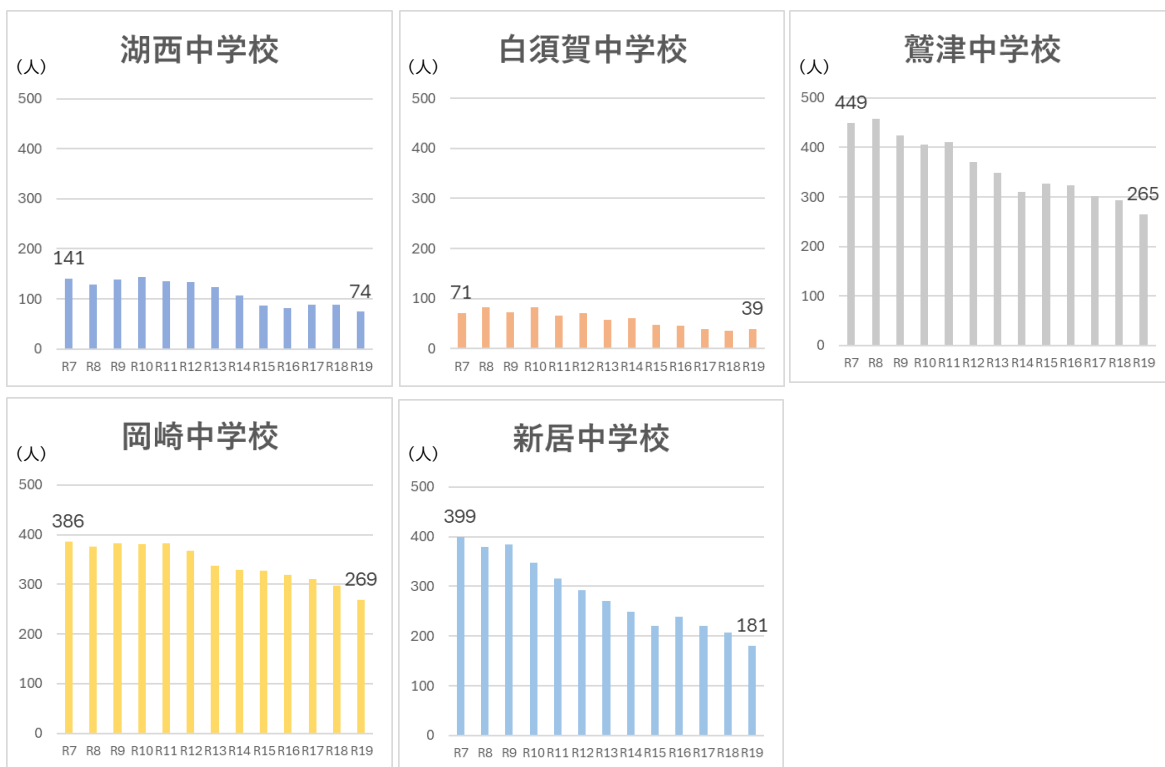


②中学校生徒数の推移（見込）

（人）

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
湖西中学校	141	128	138	144	136	134	123	106	87	82	89	88	74
白須賀中学校	71	82	73	83	66	70	58	60	48	46	39	36	39
鷺津中学校	449	457	424	406	410	371	349	310	327	324	301	294	265
岡崎中学校	386	375	382	380	383	367	338	329	327	319	311	298	269
新居中学校	399	379	385	347	316	292	271	249	221	239	221	207	181

※再編方針で提示した生徒数から R7. 5. 1 現在の児童生徒数による推計値に更新しています。



(2) 令和4～5年度実施の子育て世代のアンケート結果について

令和5年3月に小学校入学前、小学生のお子さんをお持ちの子育て世代の方を対象としたアンケートを実施しました。白須賀地区の再編案として4つの案を提示し、今後の方向性として望ましいと考える案を選択してもらいました。提示した再編案は、第1案「小中一体型の学校になる案」、第2案「小学校は現状のままとし、中学校からは、近隣の中学校へ通う案」、第3案「小学校から大規模校へ通う案」、第4案「その他」です。

調査では125件(対象:210世帯)の回答(回答率:59.2%)があり、「これからの白須賀小学校、白須賀中学校は、どのようにしていくことが望ましいのか」について、第1案が34%、第2案が29%、第3案が30%となりました。「現状のまま」と回答した割合は、5%であり、子育て世代の方々は、何らかの手法を用いて、学校の在り方を変えていくことを望んでいることが分かりました。特に、「小学校は現状のまま、中学校から、近隣の中学校に通う」、「小学校から大規模校に通う」と回答した割合は、59%であり、6割近い方が、少なくとも中学校からは規模の大きな中学校を希望していることが分かりました。

第2章 学校再編検討の流れ

(1) 検討する項目

学校再編の検討の進め方を整理します。「再編方針」で示されている通り、学校再編の検討においては、白須賀地区に在住の方を委員に含めた「再編検討委員会」を設置し、学校再編の方向性を検討します。また、再編検討委員会での議論と並行し、保護者や地域住民との意見交換会を実施し、学校再編の検討を行います。

【検討する項目および流れ】



(2) 検討の方法

①「再編方針」において当初設定していた検討の進め方

今回検討する再編案は、「再編方針」にて白須賀地区のこれからの子どもたちの教育環境として最も適していると記されている「小学校は現状のままとし、中学校からは近隣の中学校へ通う案」について、具体案を示しながら議論し、検討することを当初予定していました。

検討を行う再編案

小学校は現状のままとし、中学校からは近隣の中学校へ通う案

②保護者の意見交換会における意見

保護者との意見交換会において以下に示す意見がありました。

保護者との意見交換会での意見【一部抜粋】

- 1) 現状の学校再編方針について
 - ・学校再編方針が十分な説明のないまま決まっている。
 - ・アンケートの項目に「現状維持」がなかった。
- 2) 中学校の存続を望む声など
 - ・中学校の廃校を検討するのではなく、小規模校の良さを活かした教育環境を充実させるべき。
 - ・小規模校のデメリットを解消するような取組みをするべき。
 - ・白須賀中学校がなくなると地域の方々との交流がなくなってしまうので残してほしい。
- 3) 保護者の声
 - ・当事者である保護者の意見を尊重してほしい。地域の意見交換会などに参加している保護者は非常に少ない。
 - ・9年間少人数での教育となることに不安がある。
 - ・保護者同士でも周りの人がどのように考えているのか分からない。

③再編検討委員会における意見

当初設定した目的で開催した第1回白須賀地区学校再編検討委員会、第2回白須賀地区学校再編検討委員会にて、以下に示す意見がありました。

再編検討委員会での意見【一部抜粋】

- 1) 第1回白須賀地区学校再編検討委員会での意見
 - ・適正化検討委員会の報告書と方針は、廃校ありきで資料等が示されていると感じてしまう。
- 2) 第2回白須賀地区学校再編検討委員会での意見
 - ・誰が決めたのかわからない方針を白紙に戻し、再検討する必要がある。
 - ・まずは方針を白紙とし、湖西市全体の将来を見据えてもう1回議論して欲しい。
 - ・幼稚園がなくなり中学校もなくなると悲しい。
 - ・せつかくの小規模校なら残さないと、という気持ちも強い。
 - ・圧倒的に地域住民にも反対の空気があり、もう少し残す努力を検討してほしい。

④修正した検討の目的と検討の進め方

当初、「再編方針」にて白須賀地区のこれからの子どもたちの教育環境として最も適していると記されている「小学校は現状のままとし、中学校からは近隣の中学校へ通う案」について、どの中学校へ統合するのか、そして統合した際の通学方法、再編スケジュールをどうするのかなど、具体案を示しながら議論し、学校再編の詳細について検討し、基本計画として取りまとめる予定でした。

しかし、前述の通り、保護者との意見交換会で「白須賀中学校を残してほしい」という声が多く出されていること、白須賀地区学校再編検討委員会でも「再編方針について再検討してほしい」といった意見が多く出されていることから、保護者と地域の意見を丁寧に聞きながら、白須賀小学校と白須賀中学校のあり方について、学校の存続を含めた形で、再度検討することとしました。

検討の進め方は、当初設定した検討の進め方と同様に、白須賀地区に在住の方を委員に含めた「再編検討委員会」において、白須賀地区のこれからの子どもたちの教育環境としてどのような形が最も適しているのかについて検討を行いました。また、再編検討委員会での議論と並行し、保護者や地域住民との意見交換会を実施し、いただいた意見を学校再編の検討の参考とします。

再検討する再編案は次の2案とします。

表：検討を行う再編案

A案	白須賀小学校と白須賀中学校ともに存続する案
B案	白須賀小学校は現状のままとし、中学校からは近隣の中学校へ通う案

第3章 再編案の再検討

前章で提示したA案（白須賀小学校と白須賀中学校ともに存続する案）とB案（白須賀小学校は現状のままとし、中学校からは近隣の中学校へ通う案）について比較し、それぞれの案の概要、考えられる教育効果、通学方法、懸念事項について整理しました。

1. A案の概要

概要	<p>「中学校を存続」とした場合には、少人数だからこそ可能な教育が推進できます。そして、地域との密接な連携により地域全体が学びの場となり、実社会との接点を持ちながら学ぶことができる環境下での「体験学習」など特色のある学校づくりを進めていきます。</p> <p>また、小学校も存続することから、隣接する小学校の利点を活かし、連携した取組みで教育効果を高めていきたいと考えます。</p>
教育効果など	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人に役割を任せられる場面が多く、責任を持って取り組むことの大切さや、自己肯定感、自己有用感を育むことができる。 ・小学校から中学校まで同じクラスとなるため、一緒に過ごす時間が長く、互いをよく理解し合い、思いやりながら、穏やかな雰囲気の中で学校生活を送ることができる。 ・小学校、中学校が隣接しているため、学校単位を超えた異学年合同の活動を行いやすく、交流を深めることができる。 ・小学校、中学校の教育プログラムを通して、歴史ある白須賀地区を探索し、地域の歴史・文化・自然・産業などの良さを活かした学びを積み重ね、学んだことを発信していく活動も可能となる。 <p>→小学校、中学校ともに全学年で1学級であり、今後も人数が減少していくことが見込まれます。</p>
通学方法	<p>→現在の小学校と中学校を存続するため、通学については現状と変わりません。</p>
懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校から中学校まで同じクラスとなるため、人間関係が固定化され、集団内での立場関係をその集団のみで改善することが難しい可能性がある。 ・生徒数が多い学校と比較すると多様な考えに触れる機会が減り、人間関係が固定化され、集団内での立場関係をその集団のみで改善することが難しい可能性がある。
中学校を存続する場合の取組み(案)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携、交流をさらに深め、子どもたちに白須賀地区の歴史・文化・自然産業等の地域資源を活用した体験学習から、子どもたちが社会の一員として自立できる環境づくりを行う。 ・小中合同で学習発表会を行うなど、異学年の交流をさらに充実させ、多くの人と関わる機会の増加を図る。また、小規模特認校制度*の導入を検討する。

※「小規模特認校制度」…小規模校の良さを活かした教育環境で学びたいという希望者に対し、通学区域に関係なく、市内のどこからでも就学を認める制度です。ただし、学級数（1学級の人数は35人以下）が増加しない範囲内での募集となります。

2. B案の概要

概要	<p>近隣の中学校と統合することで、将来的にもクラス替えが可能となる規模を維持することができます。生徒たちは同学年の多くの仲間と関わる事が可能となり、学びと活動の幅が広がることが考えられます。</p> <p>小学校は存続することから、小学校における地域住民とのかかわりはこれまでと同様に続いていくものと考えます。</p>
教育効果など	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校と比較すると多様な考えに触れる機会が多くなり、自他の違いに気付いたり、自分らしさを磨いたりすることで、自己を成長させていくことができる。 ・学年ごとにクラス替えがあり、人間関係に問題が生じた場合にも、新たな人間関係を築きやすい。 ・2学級以上あることで、各学級が互いに磨き合い、学級ごとの個性や特色を活かしながら学び合うことができる。これにより、競争と協力を通じて、達成感や自己成長を感じることができる。 ・白須賀地区だけでなく、各地区の歴史・文化・自然・産業などにも触れることができ、統合先の地域の良さを学ぶことができる。 <p><u>→小学校については将来的に全学年でクラス替えができない規模と考えられますが、中学校を近隣の中学校へ統合するため、中学校においては将来的にもクラス替えが可能な規模となると考えられます。</u></p>
通学方法	<p><u>→中学校を近隣の中学校へ統合するため、多くの中学生の通学距離が長くなることが想定されます。</u></p>
懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> ・通学距離が長くなる生徒が多くなり、生徒や保護者の通学にかかる負担（通学時間の増加、送迎の調整等）が増加する可能性がある。 ・人数の少ないところから人数が多いところに通うことになるため、中学校入学時の不安や負担が大きくなる可能性がある。
中学校を存続する場合の取組み(案)	<ul style="list-style-type: none"> ・通学距離に応じてスクールバス等を導入するなど、通学にかかる負担を軽減させるとともに、安全な通学路の整備を行う。 ・統合前における中学校同士の交流事業のほか、小学校段階からの学校間交流事業を実施することで、中学校から近隣の中学校へ統合することとなる生徒の不安解消を図る。

第4章 住民意向の確認

住民意向の確認では、白須賀地区全世帯アンケート調査及び白須賀地区内小中学生アンケート調査を実施しました。

1. 白須賀地区全世帯アンケート調査

(1) 調査実施概要

学校再編に関する意向調査として、白須賀地区における保護者及び地域に住む方々を対象としたアンケート調査を実施しました。調査概要は以下の通りです。

調査対象	: 令和7年度10月時点で白須賀地区にお住まいの世帯 (対象: 1,121世帯)
期間	: 令和7年10月21日(火)～11月21日(金)
調査方法	: アンケート調査依頼文、調査票を郵送、学校での配布、自治会からの配布のうちいずれかの方法で行い、回答はWEBでの回答、もしくは調査票を紙で提出(紙で提出する場合には、南部構造改善センターに設置した回収ボックスに投函もしくは区長へ提出の2通りの方法にて回収)で行った。
主な調査項目	: 望ましいと考える再編案(次の再編案から一つを選択)

A案	白須賀小学校と白須賀中学校ともに存続
B案	白須賀小学校は存続、白須賀中学校は近隣の中学校に統合 【統合を希望する中学校】 ・鷺津中学校 ・岡崎中学校 ・新居中学校
その他	A案、B案以外の案(自由記入)

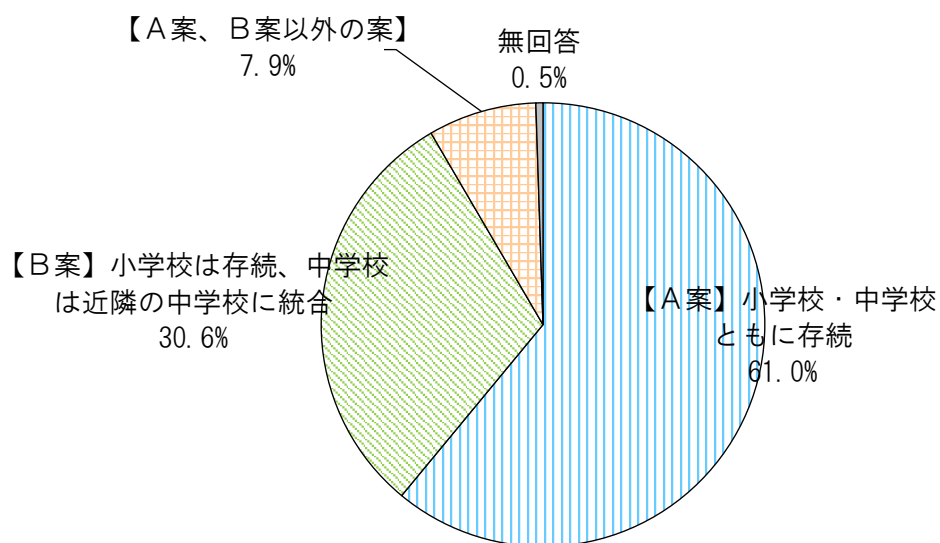
(2) アンケート調査結果

① 回答率

今回のアンケート調査の回答率は、51.92% (582/1,121 世帯) です。

② 望ましいと考える再編案

白須賀地区の方々が望ましいと考える再編案は以下の通りです。最も多い回答はA案が61.0% (355人)、次いでB案が30.6% (178人)、A案、B案以外の案は7.9% (46人) でした。



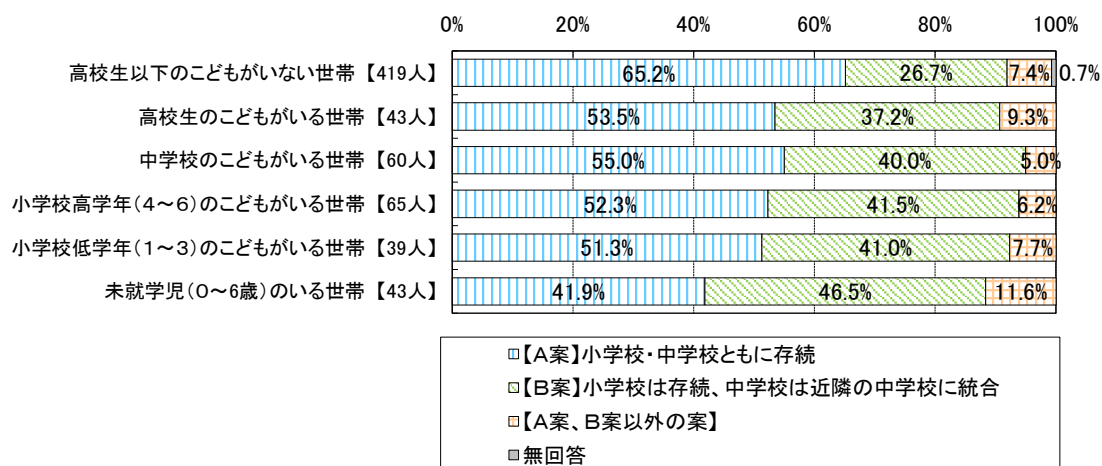
白須賀地区の方々が望ましいと考える再編案

なお、A案、B案以外の案を選択した方の記述内容から区分した大まかな内訳は次のとおりです。

(参考：記述内容から区分) 【A案、B案以外の案の内訳】

選択肢	件数
小学校、中学校ともに統合	16
小中ともに選択制	3
小中一体型	12
その他	15

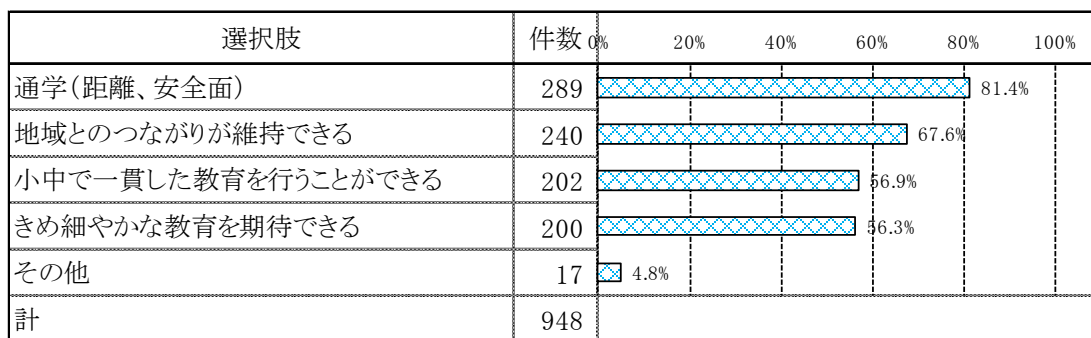
また、子どもの年齢による世帯別の望ましいと考える再編案は次のとおりで、小学校以上の子どもがいる世帯ではA案が望ましいという回答が多い一方で、未就学児（0～6歳）のいる世帯ではB案が46.5%と最も多く、次いでA案が41.9%、A案、B案以外の案は11.6%でした。



③再編案を選択した理由（複数回答可）

望ましいと考える再編案を選択した理由のうち主なものは以下の通りです。A案を選んだ理由として最も多かったのは「通学（距離、安全面）」で81.4%、次いで「地域とのつながりが維持できる」で67.6%でした。

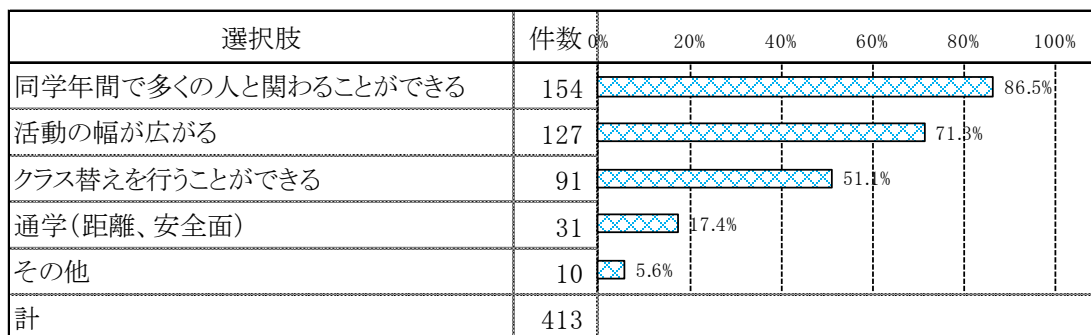
【A案】小学校・中学校ともに存続



集計母数355名

B案を選んだ理由として最も多かったのは「同学年間で多くの人と関わることができる」で86.5%、次いで「活動の幅が広がる」で71.3%でした。

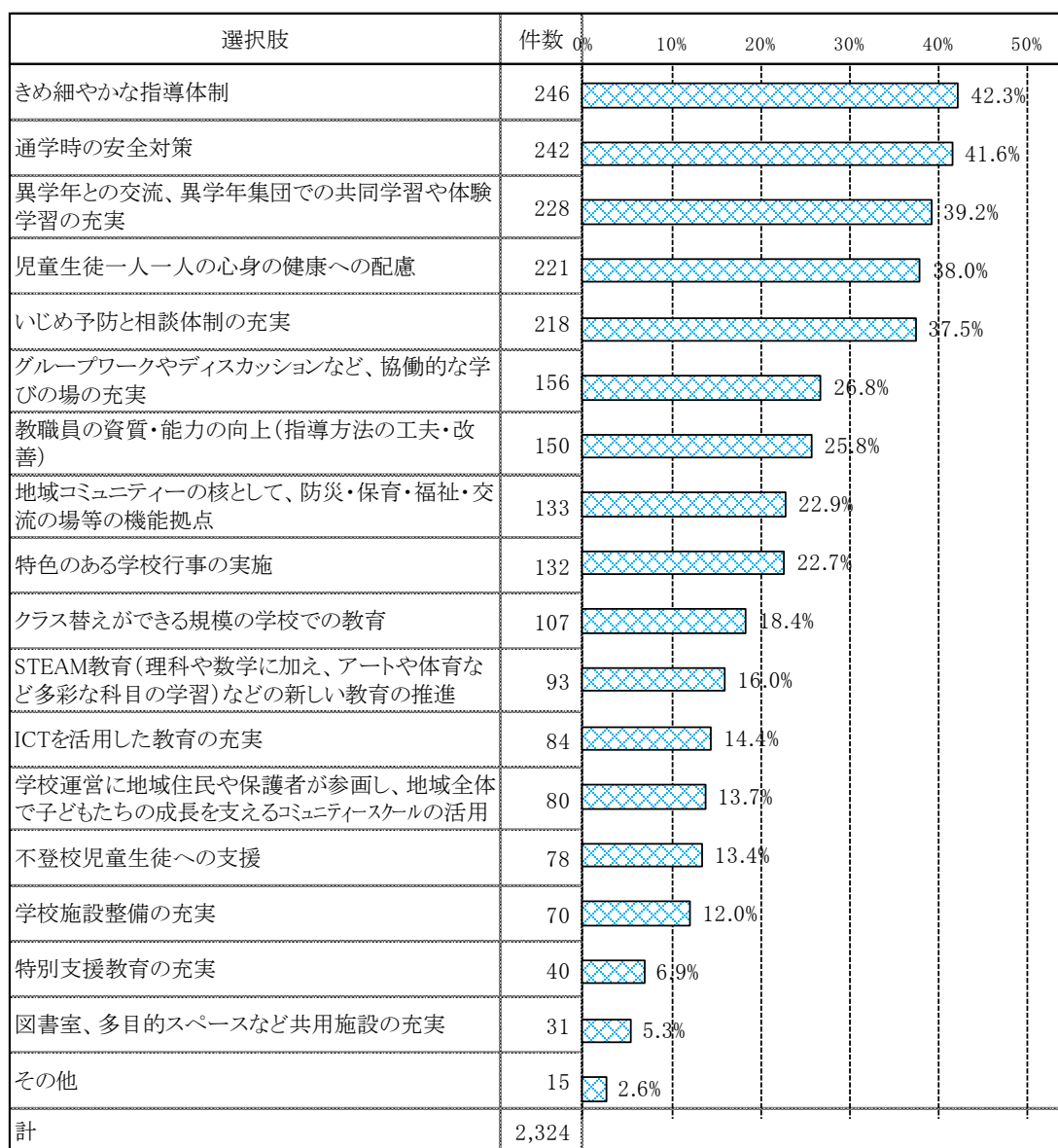
【B案】小学校は存続、中学校は近隣の中学校に統合



集計母数178名

④今後の教育環境に求めるもの（複数回答可）

今後の教育環境に求めるものに対する意見は以下の通りでした。最も多かったのは「きめ細やかな指導体制」で42.3%、次いで「通学時の安全対策」で41.6%でした。



集計母数582名

⑤白須賀地区のこれからの小中学校に関するご意見（自由記入）

アンケート調査に記載された白須賀地区のこれからの小中学校に関する意見のうち、主なものは以下の通りです。

表：白須賀地区のこれからの小中学校に関する主なご意見

主な意見（複数の意見を集約）

- ・廃校にするより、白須賀をもっと発展させて住みたい町にしていく必要があると思う。
- ・小中一貫校として小規模校のメリットを活かして存続してほしい。
- ・小規模校の良さを活かしていった方が良いのでは。

その他意見（一部抜粋）

- ・中学校が統合となった場合、悪天候等により送迎が必要となった場合、できない家庭もあるのではないかと。
- ・若い人たち（これから小中学校に入学する子どもをもつ方たち）の意見を大切にしてほしい。
- ・特色ある学校づくりを進めてほしい。

2. 白須賀地区内小中学生アンケート調査

(1) 調査実施概要

学校再編に関する意向調査として、白須賀地区内の小学生を対象としたアンケート調査を実施しました。アンケート調査では、約7割の子どもがA案を支持する意見が多いという結果となりました。調査概要は以下の通りです。

調査対象 : 令和7年度12月時点で白須賀小学校、白須賀中学校に通う児童生徒
期間 : 令和7年12月1日(月)～12月5日(金)
調査方法 : タブレット端末により実施
主な調査項目 : 望ましいと考える再編案(次の再編案から一つを選択)

A案	小学校・中学校ともに存続
B案	白須賀小学校は存続、白須賀中学校は近隣の中学校に統合
その他	ほかの考えがある。まだよくわからない。

(2) アンケート調査結果

①回答数

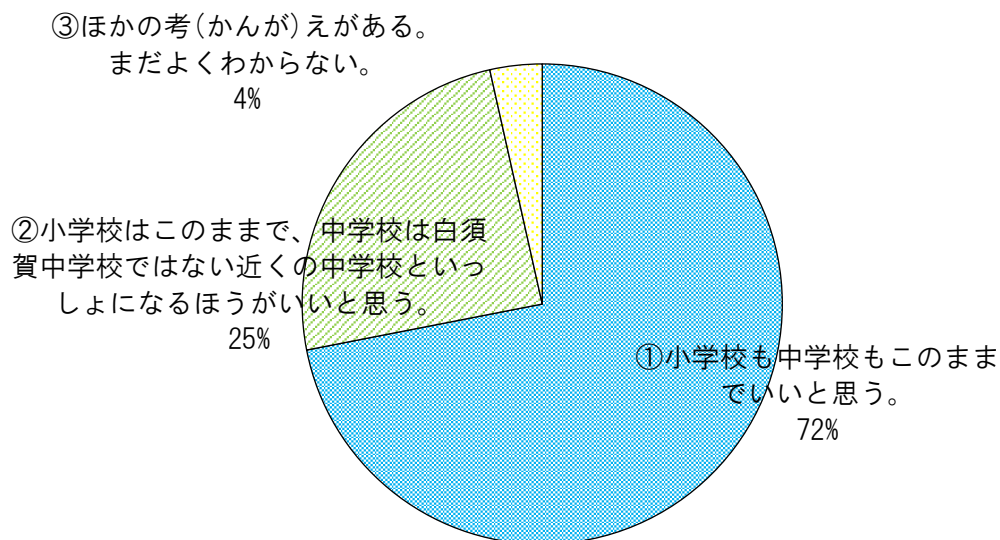
小学生低学年(1年～3年) : 57人

小学生高学年(4年～6年) : 82人

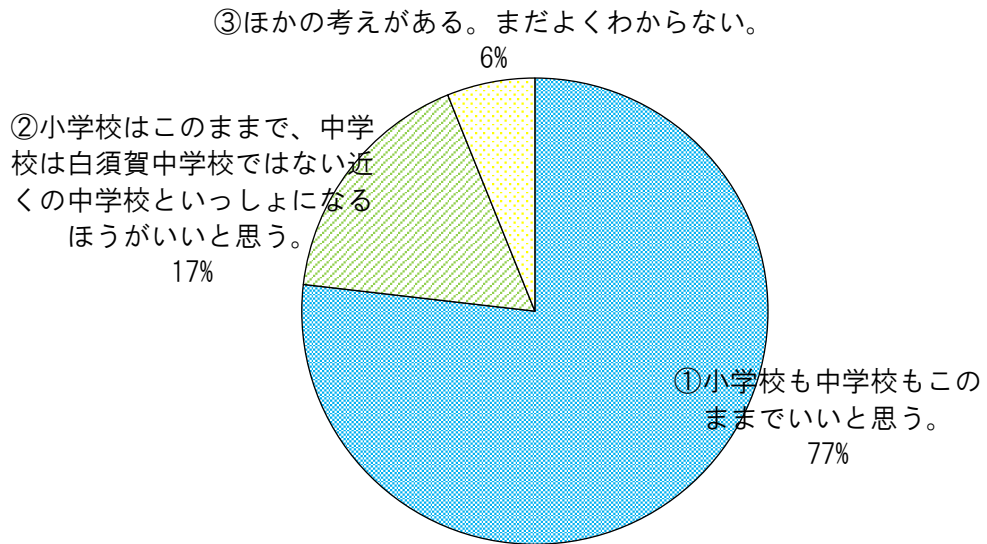
中学生 : 69人

②望ましいと考える再編案

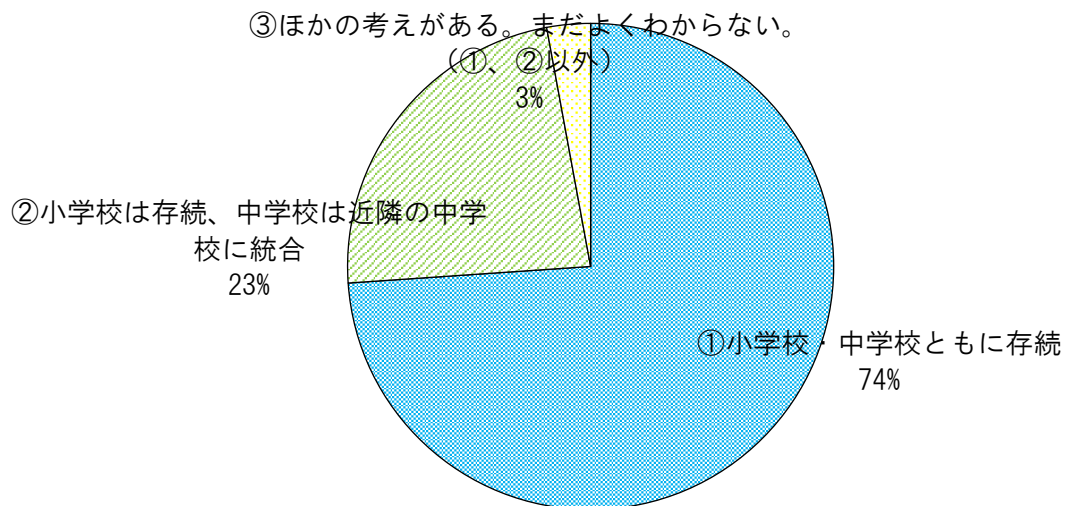
白須賀地区の小学生低学年が望ましいと考える再編案は以下の通りです。最も多い回答はA案が72%(41人)、次いでB案が25%(14人)、その他は4%(2人)でした。



白須賀地区の小学生高学年が望ましいと考える再編案は以下の通りです。最も多い回答はA案が77% (63人)、次いでB案が17% (14人)、その他は6% (5人) でした。



白須賀地区の中学生が望ましいと考える再編案は以下の通りです。最も多い回答はA案が74% (51人)、次いでB案が23% (16人)、その他は3% (2人) でした。



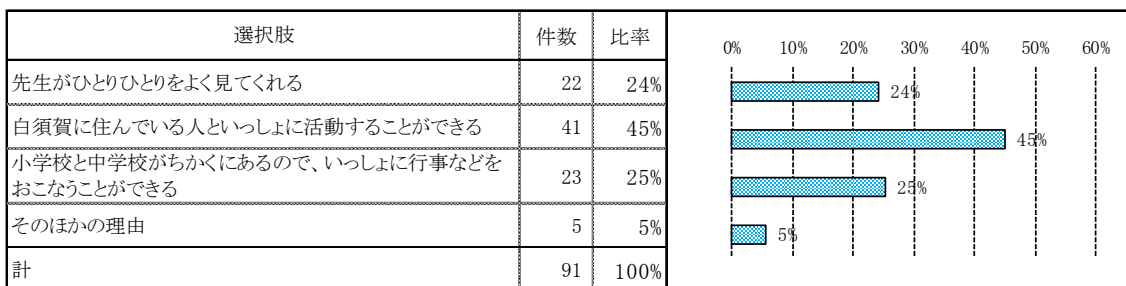
③再編案を選択した理由

小学校4年生以上の子どもには再編案を選択した理由についても確認しました。

<小学校>

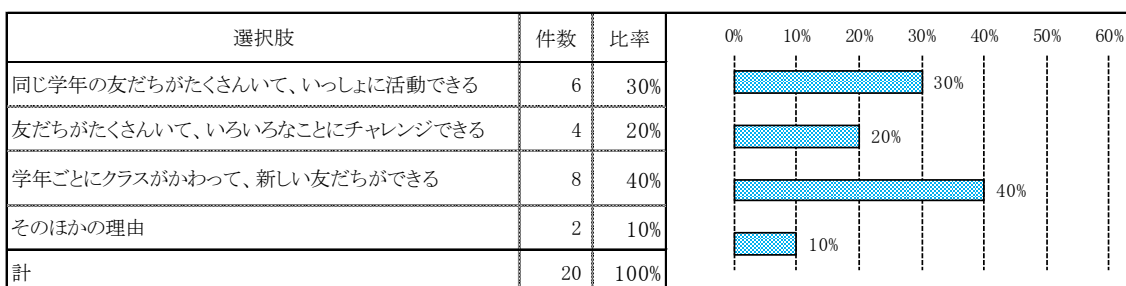
①小学校も中学校もこのままでいいと思う。

63人



②小学校はこのままで、中学校は白須賀中学校ではない近くの中学校といっしょになるほうがいいと思う。

14人



<中学校>

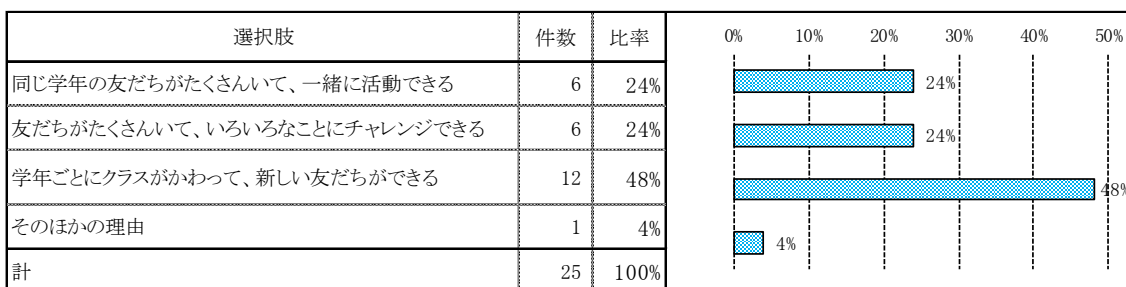
①小学校・中学校ともに存続

51人



②小学校は存続、中学校は近隣の中学校に統合

16人



第5章 学校再編検討委員会の意見

本章は、これまでに実施した地域住民アンケートの結果、小中学生のアンケートの結果及び学校再編検討委員会における協議内容を踏まえ、委員から挙げられた主な意見を整理したものです。学校の「存続」・「統合」の結論を示すものではなく、今後、市が最終的な判断を行うにあたり、検討すべき論点及び留意事項を整理することを目的としています。

1. 今後の小中学校の在り方について

- ・これまで実施したアンケート結果が現時点における地域住民や児童生徒の意見を反映したものであると考え、小中学校ともに「存続」とするのが妥当である。
- ・地域住民アンケートの結果より、未就学児のいる家庭の意見では、「統合」を希望する意見の割合が高くなっていることにも留意すべきである。
- ・小中学生のアンケート結果からクラス替えはあったほうが良いと思う子どもも一定数いるということを見逃してはいけない。
- ・大規模校に組み込まれていく「統合」ではなく、体育大会や文化祭を市内の他校と一緒に実施するなど足りないものを補い合えるような学校の在り方も模索されるべきである。
- ・児童生徒数など学校の規模だけに偏らず、学校再編の検討をしてもらいたい。

2. 市及び教育委員会に対する要望事項等

- ・学校再編の方向性が定まらず、地域住民の間で溝が深まることが懸念される。また、白須賀地区のまちおこしの方向性にも影響を与えるため、今回のアンケート結果や本検討委員会における意見を踏まえ、明確な方向性を出してもらいたい。
- ・このまま方向が定まらない状態で時間が過ぎてゆくのは良くないので早期に結論を出してもらいたい。
- ・「存続」、「統合」にかかわらず、現在、バスで通っている児童の保護者に対する負担軽減策や児童生徒の通学路の安全について留意してほしい。
- ・「存続」「統合」どちらの結論になっても半分近い保護者の不安や心配事は残るため、結論を公表する時には不安や心配事を解消する具体的な方策を明示し丁寧な説明をしてもらいたい。
- ・「存続」と結論付ける場合は、この地域だからこそそのきめ細やかな指導体制や異学年との交流など、小規模校のメリットを活かすとともに、人間関係の固定化等のデメリット解消の方策を検討し、より良い教育環境を更に発展できる学校運営を望む。
- ・「存続」と結論付ける場合は、教育委員会が考える望ましい教育環境の確保のために決めた「統合」の方針とは異なるので、子どもにとって望ましい教育環境の確保以上に優先する理由の説明が必要である。
- ・「存続」と結論付ける場合は、次に示すような具体的な方策を早急に実施できるように検討し、懸念点を少しでも払拭できるように進めていくことを地域住民や保護者に対し説明してほしい。

具体的な方策案に関する意見

- ・小規模校の良さを活かした教育環境で学びたいという希望者に対し、通学区域に関係なく、市内のどこからでも就学を認める小規模特認校制度の導入を検討すること。
- ・学年を越えた学習カリキュラムや小中一貫教育等、小規模校の特性を活かした教育をさらに充実させること。
- ・市内にある他校との合同授業、交流学习、ネット環境を活用した全国の学校同士での遠隔授業を通して、多様な人間関係構築を経験できる機会を確保すること。
- ・白須賀地区の良さを活かした「特色のある教育」（地域住民との交流、地域の自然を活かした体験学習等）をさらに充実させること。
- ・全国の先進的な教育（例えば、英語特化クラスの導入等）の導入検討をすること。
- ・地域と一体となって子どもたちを育む学校づくり（コミュニティ・スクール）の効果的な運用を検討し、家庭、地域との連携をさらに強固にすること。
- ・白須賀地区の活性化に向け、優良田園住宅制度等、引き続き住宅用地の確保に努めること。

3. まとめに代えて（委員長談話）

令和4年3月の「学校教育施設適正化検討委員会報告書」、それを踏まえ令和5年5月に策定された「学校再編方針（小学校は現状維持、中学校は近隣中学校に通学する）」、その後の保護者や地域住民との意見交換会を受けて、令和5年10月に第1回検討委員会が行われた本委員会は、第2回検討委員会の後、長い中断を経て、令和7年7月に再開した（第3回検討委員会）。本委員会再開後は、委員の意見を踏まえて、中学校の統廃合の是非だけでなく、「望ましい教育環境」についても住民の意見を伺うアンケートを作成し、実施した。結果的に、白須賀地区の住民、保護者、そして子どもも含めて多くの方々の協力を得て広く意見を伺うことができた。アンケートの作成・実施は学校や地域について、改めて「みんなで当事者意識をもって考える」きっかけになったのではないかと思われる。第5回検討委員会では、市長にも参加していただき、白須賀という特定地域だけの問題に終わることなく、湖西市全体の教育についても貴重な意見のやり取りがあった。

今日、公立小学校・中学校の統廃合問題については、文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引—少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて—」（平成27年1月27日）がある。そこでは、「学校規模の適正化の検討は、様々な要素が絡む困難な課題ですが、飽くまでも児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に捉え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきもの」とある。ただし、「同時に、小中学校は児童生徒の教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災、保育、地域の交流の場等、様々な機能を併せ持っています」、「学校教育は地域の未来の担い手である子どもたちを育む営みでもあり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格も持っています」と書かれている。

これまでも学校は地域との関わりを当たり前のこととして重視してきたが、少子高齢化が急速に進む中で学校の小規模化が進み、学校の規模がいわゆる「適正規模」に満たない時はまず「児童生徒の教育条件の改善」が求められ、結果的に統廃合に至る場合が多かった。検討の過程において、「家庭を含めた地域の意見をどこまでくみ取れているのか」、また、「まちづくりの在り方と連動した検討がどこまで行われてきたのか」が問われてきた。前述の手引では、学校統合に関して留意すべき点の第一に「学校統合の適否に関する合意形成」をあげているが、合意形成のための「参加」の在り方も含めて学校と地域との間の合意形成は容易ではない。

その点、本委員会がわずか6回の開催であったにもかかわらず、一回一回の検討会の協議や途中の長い中断を経て、住民の多くの協力の下に行われたアンケートの意義は大きい。本報告書に示されたこれまでの検討の経緯やアンケート結果、それに関わる委員の意見は、結論や提言としては明確ではないかもしれないが、学校と家庭、地域の合意形成のプロセスであり、本委員会としての一つの到達点を示すものといえる。本委員会の報告書をまとめるにあたって、委員から「存続」「統合」について明確に示すべきという意見もあったが、「学校再編検討委員会の意見」（第5章）としたのは、本委員会では総合的には「存続」

という民意が示されたものの、学校教育のさらなる充実や「まちづくり」への要望も含めて多面的に示された本委員会の意見の形（かたち）をできる限りそのまま示したかったからである。

平成 27 年 3 月に告示された現行の「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」では、「主体的・対話的で深い学び」の観点からの授業改善を中心的な課題としており、特に「深い学び」に関わって「社会に開かれた教育課程」の重要性が指摘されている。湖西市では、県立高等学校である湖西高校が市教育委員会との協力の下、「探究」の授業として「湖西学」を積極的に進めている。教職員の働き方改革、それに関わる部活動の地域移行（地域展開）、コミュニティ・スクールなどの今日の教育改革においては地域との関わりの良さがこれからの教育の良さに直結していくことになるだろう。ただ、少子高齢化社会において学校の小規模化が進み、地域社会も変貌している状況下では、学校と地域との関わりの良さを保つことは、学校、地域双方でそれなりの努力が求められることも自覚されなければならない。

白須賀地区では、小中一貫教育についての意見もあったが、一貫教育を進めるにあたって老朽化した学校施設の改修には多額の費用がかかる。逼迫した地方財政のもと、学校だけでなく個々の公共施設の固有の機能を明確にし、どこまで機能連携が可能かを十分検討したうえで公共施設を整備し運営していくという、生涯学習的視点をもった公共施設マネジメントも求められるのかもしれない。

本報告書に示された学校と地域に関わる意見が白須賀地区の学校の在り方のみならず、湖西市全体の公教育の在り方を考える契機になることを願ってまとめに代えたい。

おわりに

本報告書は、白須賀地区の学校再編について、保護者や地域の方々との意見交換、地域住民や小中学生を対象としたアンケート結果、検討委員会での議論等を整理したものです。

今後、白須賀地区の学校再編については、本報告書の内容や保護者及び地域の方々から寄せられた多様な意見、これまでの検討経過等を十分に踏まえながら、「子どもたちにとってよりよい教育環境の充実」という観点から、市及び教育委員会において速やかに検討を進め、総合的に判断します。

また、いずれの判断を行う場合においても、その理由や背景、今後の具体的な対応方針について、保護者及び地域の方々に対して説明の機会を設け、理解を得ながら進めていくことが重要であると考えます。

資料編

1. 過年度報告書【抜粋】

①湖西市立学校教育施設適正化検討委員会報告書（令和4年3月）【抜粋】

5 望ましい教育環境について（p.10）

（1）単学級における児童生徒数

①小規模小学校（白須賀小、東小、知波田小）について

小学校で、全ての学年で単学級だった場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数について、検討した結果、以下のようになりました。

【単学級の場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数】

小学校では、20人以上は必要である。

○理由

- ・きめ細かい指導ができる点と社会性を身につける点の両面から勘案すると20人以上は必要である。学習面では、人数が少ないことで、個別に指導できる時間が増えるため、教師によるきめ細かい指導が可能となる。そのため、学習面では、少ない方が良い面がある。しかし、社会性を身につける点では、人数が少ないことで、多様な考えにふれる機会がなくなり、自分の考えと比べたり、よい行いやアイデアを取り入れたりといった経験が乏しくなってしまう。他者から学び、成長するという点で、20人は必要である。
- ・幼児期から児童期と、子どもたちは小集団から徐々に社会性を身につけて、大きな集団を形成していく。集団で活動することによって、自分と他者の相違点に気付きながら、社会に出るために必要な資質・能力を身につけていくことを考えると必要な数であるから。
- ・国の進める小学校35人学級編成では、36人で2学級になり、1学級18人となる。この人数からも20人以上が望ましい。
- ・人間関係がこじれてしまった場合には、児童にとっても、保護者にとっても、新たな人間関係を作る機会が必要である。人数が少なすぎると、人間関係の修復が難しくなってしまった場合に、逃げ道がなくなってしまうため。
- ・PTAの運営の面からも人数が少なすぎると負担が大きくなる。円滑に運営するためにも人数が必要であるため。

②小規模中学校（白須賀中、湖西中）について

中学校で、全ての学年で単学級だった場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数について、検討した結果、以下のようになりました。

【単学級の場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数】

中学校では、30人以上は必要である。

○理由

- ・高校では、40 人学級である。人数が少ないと高校進学時にギャップが大きくなり、適応が難しくなることを考えると、30 人以上は必要である。
- ・保健体育は、男女別で学習する。20 人だと 10 人ずつになってしまう。これだと、学習内容に制限が生じる可能性がある。学習する機会を保障するためにも 30 人は必要である。
- ・自分の夢や目標に向かって、切磋琢磨しながら学校生活を送り、心身を大きく成長させることができる時期であるので、30 人は必要である。
- ・思春期で、様々なことを思い、悩む時期である。人と関わる範囲も大きくなる時期であるので、できるだけ多くの人がいって、多様性を学ぶことが望ましいから。また、人間関係に問題が生じた場合でも、30 人はいた方が、新たな人間関係を築きやすい。

(2) 学級数 (p.11)

小規模校では、単学級という状況が続いており、そのメリットを活かしながら、デメリットを改善するようにして、学校運営が行われており、現在の状況は、子どもたちの健やかな成長を促すことができる教育環境が維持されていると考えています。しかし、今後も、少子化が進むため、現在の教育活動を維持し、教育効果を上げていくことが難しくなっています。全ての学級が単学級の小規模校においては、近い将来、小学校で 20 人以上、中学校で 30 人以上を維持することが難しくなっています。そこで、1 学年でどれくらいの学級数が、子どもたちにとって望ましい教育環境として必要であるのかについて検討しました。その結果は以下のようになりました。

【望ましい教育環境としての学級数】

小中学校で、1 学年 2 学級以上、できれば 3 学級が必要である。

○理由

- ・単学級では、良好な関係が続けばよいが、人間関係に大きな問題が生じた場合には、子どもにも、保護者にも居場所がなくなってしまう可能性が高いため、2 学級以上が必要である。
- ・2 学級以上あることで、学級ごとに競い合う学校行事を通して、協力することの大切さを学んだり、活気のある活動によって達成感を味わい、心身の成長を促したりすることができるから。
- ・社会へ出ていく上で、コミュニケーション能力は非常に大切である。毎年、クラス替えがあることで、人と積極的にかかわり、仲間づくりをする機会があるため、コミュニケーション能力を育成することができるから。

- ・できれば3学級あることで、子どもの人間関係に配慮しながら、学級編成が可能であり、子どもたちも2学級よりも、人間関係の固定化を防ぐことができる。
- ・教員の育成という点からも、1学年で2学級以上あることで、学年運営を相談して進め、経験の浅い教職員がベテランの教職員と話し合っ、アイデアを練り、質の高い教育の実現と、教職員の資質・能力の向上につながるから。
- ・P T A活動の負担を軽減するためにも必要な学級数である。

6 望ましい教育環境に近づけるための手法について

(2) 本市における効果的な手法 (p.13)

通学区域の変更や学校の自由選択制は本市には、なじまず、統廃合や小中一貫による適正配置が効果的である。

○理由

- ・通学区域が旧の町村に基づいて設置されている。したがって通学区域を大きくしたり、小さくしたりすると行政区と通学区域の不一致が生じるため、保護者や地域の理解は、得られないと考える。また、学校選択制を導入した場合、状況によっては小規模校の子どもの数を増やすために選択制にしたのに、逆に小規模校の子どもたちが大きな学校を選択して、ますます小規模校の子どもの数が少なくなってしまうことも考えられる。まずは、統廃合を選択していくのが良い。統廃合をベースに考えていって、それで補えない場合には、色々な手法を考えるのが良い。
- ・通学区域の変更というのは、保護者、地域と学校の繋がりがあるので、保護者、地域の理解は得られにくい。学校と地域が繋がって、色々な活動を行っている。住んでいる行政区と異なる学校に通うことは、教育効果が低くなる。
- ・小中一体化や統廃合によって学校を合わせるだけでなく、本市の政策などによって人を増やしていくということも大事になってくる。両輪でやっていくことが大切である。
- ・判断する上で大事なことは、そこに通っていく子どもたち、保護者のことをまず第1に考えること。施設の老朽化を考えた時に、統廃合を計画的に進め、子どもたちが親になったときに我が子を通わせたいと思えるような学校をつくっていくことが大事である。子どもたちや、保護者がわくわくするような学校が必要である。

②湖西市立小中学校再編方針（令和5年5月）【抜粋】

5 本市の望ましい適正配置について（p.13）

小規模校では、児童生徒数の減少が続いていくと、1学年15人を下回る可能性もあります。どのようなメリット・デメリットが生じるのかという点について整理しました。

【1学年15人前後や10人前後の規模になった場合のメリット】

- ・ 教員が、授業の中で一人一人の学習状況を把握しやすいため、その子にあったアドバイスをし、学習内容の理解につながる。
- ・ 係活動、委員会活動、運動会などで、一人一人が役割を自覚して、行動し、達成感を味わうことで、責任をもって取り組むことの大切さやありのままの自分を肯定する感覚が育まれる。
- ・ 人数が少ないことで、お互いの性格や長所、短所を理解しやすく、お互いを認め合い、思いやりながら穏やかな雰囲気の中で学校生活を送ることができる。

【1学年15人前後や10人前後の規模になった場合のデメリット】

- ・ 人間関係が固定化し、級友に対する見方・考え方が固定化してしまったり、集団での関わり方が決まってしまう可能性が高くなる。
- ・ 切磋琢磨して自分を成長させていこうとする意欲が醸成されにくい。
- ・ 体育のゲームやボール運動で、集団対集団での競い合いや攻防の中で、動きや作戦を工夫する上で制約が生じる。
- ・ 授業では、多様な考えにふれる機会が減り、他者の考えを参考にして、自分の考えを見直し、まとめ直す経験が少なくなる。
- ・ 同級生の良い考えや見本となる発表にふれて、刺激を受け、自分もやってみたい、できるようになりたいと思う機会が減る。
- ・ 中学生は、心身の発達上の変化が著しく、また、生徒の能力・適性、興味・関心等の多様化が一層進展する時期であり、自我意識が高まるとともに個性が多様化してくる時期でもある。抽象的、論理的思考が発達するとともに社会性なども発達してくる。その時期に少人数で学校生活を送ることで、多様な考えから己を成長させていく機会が不十分になる可能性がある。

これらのメリット・デメリットを勘案すると、将来的に1学級15人以下となった場合、デメリットの方が大きくなるのではないかと考えます。

6 これからの白須賀小学校、白須賀中学校について

(2) 児童生徒数の推移について (p.14)

白須賀小学校では、平成 25 年度には、1 学年平均人数が 35 人を超えていました。平成 30 年度には、35 人以下に、令和 5 年度には 30 人を大きく下回るようになっていきます。少しずつですが、児童数の減少は続いており、令和 10 年には 20 人を下回る可能性も生じています。令和 10 年度以降も減少が続いていくと、1 学年 15 人を下回る可能性もあります。

白須賀中学校では、令和 5 年度には、1 学年平均人数が 30 人となっています。しかし、令和 13 年度以降は、1 学年 20 人を下回るようになります。令和 16 年度には、全校で 50 人になる可能性があります。また、近隣の岡崎中学校も令和 12 年度以降は生徒数が減少していくことが見込まれています。新居中学校では、令和 5 年度以降は、生徒数が減少していくことが見込まれています。

白須賀小	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1学年平均	白須賀中	1年	2年	3年	合計	1学年平均
H25	36	33	39	35	42	48	233	38.8	R 4	35	29	31	95	31.7
H26	35	36	32	37	35	42	217	36.2	R 5	23	36	31	90	30.0
H27	33	36	35	29	38	36	207	34.5	R 6	35(1)	23(1)	36(2)	94	31.3
H28	39	31	36	34	30	39	209	34.8	R 7	17(1)	35(1)	23(1)	75	25.0
H29	24	37	31	35	34	31	192	32.0	R 8	37(2)	17(1)	35(1)	89	29.7
H30	34	25	38	31	34	33	195	32.5	R 9	23(1)	37(2)	17(1)	77	25.7
R 1	19	34	25	37	31	34	180	30.0	R 10	31(1)	23(1)	37(2)	91	30.3
R 2	36	20	35	24	36	30	181	30.2	R 11	16(1)	31(1)	23(1)	70	23.3
R 3	23	35	20	34	24	36	172	28.7	R 12	26(1)	16(1)	31(1)	73	24.3
R 4	30	23	36	19	35	24	167	27.8	R 13	15(1)	26(1)	16(1)	57	19.0
R 5	16	31	23	37	17	35	159	26.5	R 14	21(1)	15(1)	26(1)	62	20.7
R 6	26(1)	16(1)	31(1)	23(1)	37(2)	17(1)	150	25.0	R 15	17(1)	21(1)	15(1)	53	17.7
R 7	15(1)	26(1)	16(1)	31(1)	23(1)	37(2)	148	24.7	R 16	12(1)	17(1)	21(1)	50	16.7
R 8	21(1)	15(1)	26(1)	16(1)	31(1)	23(1)	132	22.0	R 17	13(1)	12(1)	17(1)	42	14.0
R 9	17(1)	21(1)	15(1)	26(1)	16(1)	31(1)	126	21.0						
R 10	12(1)	17(1)	21(1)	15(1)	26(1)	16(1)	107	17.8						
R 11	13(1)	12(1)	17(1)	21(1)	15(1)	26(1)	104	17.3						

(3) 子育て世代のアンケート結果について (p.16)

令和5年3月に小学校入学前、小学生のお子さんをお持ちの子育て世代の方を対象としたアンケートを実施しました。今後の方向性として選択項目として以下の4つの案を示しました。

第1案「小中一体型の学校にしていく案」、第2案「小学校は現状のまま、中学校からは、近隣の中学校へ通う案」、第3案「小学校から大規模校へ通う案」、第4案

「その他」125件(対象家庭210世帯)の回答があり、

「これからの白須賀小、白須賀中は、どのようにしていくことが望ましいのか」について、「小中一体型の学校にしていく」は、34%、「小学校は現状のまま、中学校からは、近隣の中学校に通う」は29%、「小学校から大規模校へ通う」は30%となりました。

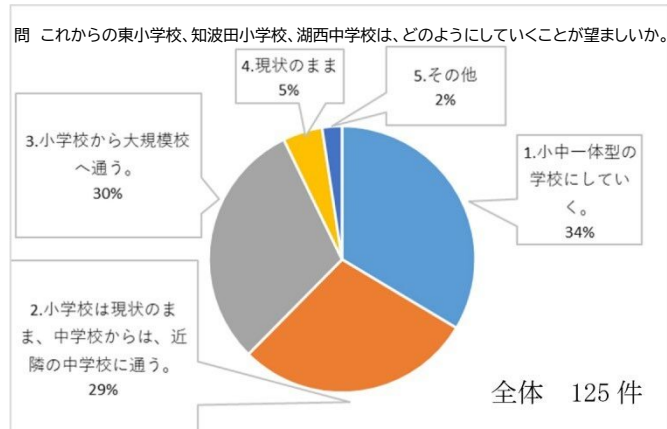


図: 令和4～5年度実施の子育て世代のアンケート結果

。「現状のまま」と回答した割合は、5%であり、子育て世代の方々は、何らかの手法を用いて、学校の在り方を変えていくことを望んでいることが分かりました。特に、「小学校は現状のまま、中学校からは、近隣の中学校に通う」、「小学校から大規模校に通う」と回答した割合は、59%であり、6割近い方が、少なくとも中学校からは規模の大きな中学校を希望していることが分かりました。

(4) 今後の方向性について (p.16)

上記の案の中から、これからの方向性については、中学校からは大きな中学校に通うという考えを尊重し、「小学校は現状のままとし、中学校からは、近隣の中学校へ通う案」が、白須賀地区のこれからの子どもたちの教育環境として、最も適していると考えます。

2. アンケート調査用紙

①アンケート調査依頼文

令和7年10月吉日

白須賀小・中学校区にお住いの皆様

湖西市教育委員会

これからの小中学校（白須賀地区）についてのアンケート（依頼）

白須賀地区の学校再編については、これまで「小学校は現状維持、中学校は近隣中学校に通学する」という方針で議論を進めてまいりました。しかしながら、地域の皆様や保護者の方々と意見交換を通じて検討を進める中、少人数・小規模の中で学ぶ環境に不安の声がある一方で、少人数だからこそ可能な特色ある教育の取組みへの期待や、地域の活性化に不可欠な「地域の核」としての中学校の存続を支持する意見も多く、多様な考えがあることが確認できました。このため、「中学校を存続する」という選択肢を加えたアンケートを改めて実施し、幅広いご意見を伺うこととしました。

なお、湖西市では、未来を担うこどもたちに「住み続けたい」と思ってもらえるような魅力あふれる元気なまちにしていくための施策に取り組んでいるところであり、学校再編の検討と並行して白須賀地区を含む地域の活性化に向け、空き家対策や優良田園住宅制度の導入など、住宅用地の確保も継続的に努めております。

1. 回答方法等

次のいずれかの方法により回答してください。

ウェブ回答



アンケート用紙による回答の場合の提出先は、①または②のいずれかとなります。

回答方法	提出先等	回答・提出期限
ウェブ回答	上記2次元コードまたは下記URLより回答 https://logoform.jp/f/TS7TU	11月21日(金)
アンケート用紙 (P5~6)	① 組長または町内会長(直接または郵便受け)	11月7日(金)
	② 南部構造改善センター内「回収箱」	11月21日(金)

<アンケート用紙について>

次のとおり配布するため、アンケート用紙が複数届く世帯がありますが、**1世帯1回答**でお願いします。(同じ住所にお住まいの方でも、世帯主が異なる場合は、それぞれの世帯ごとでアンケートにご回答ください。)

① 未就学のお子さんがある世帯	郵送による配布
② 白須賀小学校にお子さんがある世帯	学校からお子さんを通じて配布
③ 白須賀中学校にお子さんがある世帯	学校からお子さんを通じて配布
④ 全世帯(①~③の世帯を含みます)	自治会による各戸配布

※お子さんのいる世帯の配布例について(兄弟関係等)

<例>未就学児のみ…①、④ 未就学児、小学生…②、④

未就学児、小学生、中学生…③、④ 中学生、高校生…③、④

一番下のお子さんが高校生以上…④

2. アンケート結果について

アンケート結果は集約後、ウェブサイトなどで公表いたします。なお、今回のアンケート結果のみで白須賀中学校の存続又は統合を決定することはありません。

問合せ先: 学校教育課(大石・戸田) / 電話 053-576-4798

【A案】小学校・中学校ともに存続

「中学校を存続」とした場合には、少人数だからこそ可能な教育が推進できます。そして、地域との密接な連携により地域全体が学びの場となり、実社会との接点を持ちながら学ぶことができる環境下での「体験学習」など特色のある学校づくりを進めていきます。

また、小学校も存続することから、隣接する小中学校の利点を生かし、連携した取り組みで教育効果を高めたいと考えます。

教育効果など	生徒一人一人に役割を任せられる場面が多く、責任を持って取り組むことの大切さや、自己肯定感、自己有用感を育むことができる。
	小学校から中学校まで同じクラスとなるため、一緒に過ごす時間が長く、互いをよく理解し合い、思いやりながら、穏やかな雰囲気の中で学校生活を送ることができる。
	小学校、中学校が隣接しているため、学校単位を超えた異学年合同の活動を行いやすく、交流を深めることができる。
	小学校、中学校の教育プログラムを通して、歴史ある白須賀地区を探索し、地域の歴史・文化・自然・産業などのよさを生かした学びを積み重ね、学んだことを発信していく活動も可能となる。
懸念事項	小学校から中学校まで同じクラスとなるため、人間関係が固定化され、集団内での立場関係をその集団のみで改善することが難しい可能性がある。
	生徒数が多い学校と比較すると多様な考えに触れる機会が減り、他者の考えを参考に、自分の考えを見直し、まとめ直す経験が少なくなる可能性がある。
中学校を存続する場合の取組み(案)	地域との連携、交流をさらに深め、子どもたちに白須賀地区の歴史・文化・自然産業等の地域資源を活用した体験学習から、子どもたちが社会の一員として自立できる環境づくりを行う。
	小中合同で学習発表会を行うなど、異学年の交流をさらに充実させ、多くの人と関わる機会の増加を図る。また、小規模特認校制度※の導入を検討する。

※「小規模特認校制度」・・・小規模校のよさを活かした教育環境で学びたいという希望者に対し、通学区域に関係なく、市内のどこからでも就学を認める制度です。ただし、学級数(1学級の人数は35人以下)が増加しない範囲内での募集となります。

【B案】 小学校は存続、中学校は近隣の中学校に統合

近隣の中学校と統合することで、将来的にもクラス替えが可能となる規模を維持することができます。生徒たちは同学年の多くの仲間と関わる事が可能となり、学びと活動の幅が広がることが考えられます。

小学校は存続することから、小学校における地域住民との関わりはこれまでと同様に続いていくものと考えます。

教育効果など	小規模校と比較すると多様な考えに触れる機会が多くなり、自他の違いに気付いたり、自分らしさを磨いたりすることで、自己を成長させていくことができる。
	学年ごとにクラス替えがあり、人間関係に問題が生じた場合にも、新たな人間関係を築きやすい。
	2学級以上あることで、各学級が互いに磨き合い、学級ごとの個性や特色を生かしながら学び合うことができる。これにより、競争と協力を通じて、達成感や自己成長を感じることができる。
	白須賀地区だけでなく、各地区の歴史・文化・自然・産業などにも触れることができ、統合先の地域のよさを広く学ぶことができる。
懸念事項	通学距離が長くなる生徒が多くなり、生徒や保護者の通学に係る負担（通学時間の増加、送迎の調整等）が増加する可能性がある。
	人数の少ないところから人数の多いところに通うことになるため、中学校入学時の不安や負担が大きくなる可能性がある。
中学校を統合する場合の取組み	通学距離に応じてスクールバス等を導入するなど、通学に係る負担を軽減させるとともに、安全な通学路の整備を行う。
	統合前における中学校同士の交流事業のほか、小学校段階からの学校間交流事業を実施することで、中学校から近隣の中学校へ統合することとなる生徒の不安の解消を図る。

【参考】児童生徒数の推移（R7.9.1 現在の児童生徒数と未就学児数による推計値）

<白須賀小学校>

	1年			2年			3年			4年			5年			6年			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
R7	8	6	14	17	12	29	8	9	17	12	15	27	13	10	23	18	17	35	145
R8	14	4	18	8	6	14	17	12	29	8	9	17	12	15	27	13	10	23	128
R9	7	8	15	14	4	18	8	6	14	17	12	29	8	9	17	12	15	27	120
R10	6	6	12	7	8	15	14	4	18	8	6	14	17	12	29	8	9	17	105
R11	5	7	12	6	6	12	7	8	15	14	4	18	8	6	14	17	12	29	100
R12	8	4	12	5	7	12	6	6	12	7	8	15	14	4	18	8	6	14	83
R13	5	8	13	8	4	12	5	7	12	6	6	12	7	8	15	14	4	18	82

<白須賀中学校>

	1年			2年			3年			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
R7	9	7	16	19	13	32	7	16	23	71
R8	18	17	35	9	7	16	19	13	32	83
R9	13	10	23	18	17	35	9	7	16	74
R10	12	15	27	13	10	23	18	17	35	85
R11	8	9	17	12	15	27	13	10	23	67
R12	17	12	29	8	9	17	12	15	27	73
R13	8	6	14	17	12	29	8	9	17	60
R14	14	4	18	8	6	14	17	12	29	61
R15	7	8	15	14	4	18	8	6	14	47
R16	6	6	12	7	8	15	14	4	18	45
R17	5	7	12	6	6	12	7	8	15	39
R18	8	4	12	5	7	12	6	6	12	36
R19	5	8	13	8	4	12	5	7	12	37

<鷺津中学校>

	1年	2年	3年	合計
R7	150	165	133	448
R8	141	150	165	456
R9	132	141	150	423
R10	133	132	141	406
R11	145	133	132	410
R12	95	145	133	373
R13	111	95	145	351
R14	105	111	95	311
R15	112	105	111	328
R16	108	112	105	325
R17	83	108	112	303
R18	104	83	108	295
R19	80	104	83	267

<岡崎中学校 ※>

	1年	2年	3年	合計
R7	138	118	127	383
R8	116	138	118	372
R9	124	116	138	378
R10	184	175	161	520
R11	154	184	175	513
R12	157	154	184	495
R13	143	157	154	454
R14	128	143	157	428
R15	137	128	143	408
R16	133	137	128	398
R17	127	133	137	397
R18	123	127	133	383
R19	89	123	127	339

<新居中学校>

	1年	2年	3年	合計
R7	129	116	153	398
R8	134	129	116	379
R9	121	134	129	384
R10	90	121	134	345
R11	103	90	121	314
R12	98	103	90	291
R13	70	98	103	271
R14	83	70	98	251
R15	70	83	70	223
R16	87	70	83	240
R17	63	87	70	220
R18	60	63	87	210
R19	62	60	63	185

※令和10年度から湖西中学校が岡崎中学校に統合予定のため、岡崎中学校の令和10年度以降の人数には、湖西中学校の生徒数も含まれています。

②アンケート調査用紙

これからの小中学校(白須賀地区)について 【アンケート用紙】

◆回答は、各世帯につき1回となりますが、同じ住所にお住まいの方でも、世帯主が異なる場合は、それぞれの世帯ごとでアンケートにご回答ください。

◆次のいずれかの方法によりご回答ください。

アンケート用紙による回答の場合の提出先は、①または②のいずれかとなります。

<ウェブ回答>

回答方法	提出先等	回答・提出期限
ウェブ回答	右記2次元コードから回答	11月21日(金)
アンケート用紙※	① 組長または町内会長(直接または郵便受け)	11月7日(金)
	② 南部構造改善センター内「回収箱」	11月21日(金)



※アンケート用紙による回答の場合は、本用紙を取り外してご提出ください。

問1 お住まいの地区を「○」を囲んでください。

新町南	新町北	元町東	宮本	元町中	坂下	汐見坂	東町東
東町中	東町西	浦町	橋町	若葉台	東笠子	東伝馬	中伝馬
西伝馬	高見	西町	船ヶ谷	笠子	笠子北	東長谷	長谷向側
長谷北町	長谷西町	西長谷	境宿東	境宿西	堤下	境川	その他

問2 回答される方の年代を「○」で囲んでください。

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

問3 お子様がいる場合は「○」を付けてください。(兄弟関係は全て○を付けてください)

0歳(R7.4.2~)	小学校1年生	中学校1年生
1歳(R6.4.2~R7.4.1)	小学校2年生	中学校2年生
2歳(R5.4.2~R6.4.1)	小学校3年生	中学校3年生
3歳(R4.4.2~R5.4.1)	小学校4年生	
4歳(R3.4.2~R4.4.1)	小学校5年生	高校生
5歳(R2.4.2~R3.4.1)	小学校6年生	
6歳(H31.4.2~R2.4.1)		

問4 これからの小中学校について、望ましいと考える案に「○」を付けてください。

※「子どもの教育環境にとって何が望ましいか」という観点からご回答願います。

【A案】小学校・中学校ともに存続
【B案】小学校は存続、中学校は近隣の中学校に統合 ※統合を希望する中学校を一つ「○」で囲んでください。
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ➡ <div style="display: flex; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">鷺津中学校</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">岡崎中学校</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">新居中学校</div> </div> </div>
【A案、B案以外の案】(望ましいと考える案をご記入ください。)
()

裏面に続きます

問5 「問4」の案を選んだ理由に「○」を付けてください。(複数選択可)

【A案】小学校・中学校ともに存続	【B案】小学校は存続、中学校は近隣の中学校に統合
きめ細やかな教育を期待できる	同学年間で多くの人と関わることができる
地域とのつながりが維持できる	活動の幅が広がる
小中で一貫した教育を行うことができる	クラス替えを行うことができる
通学(距離、安全面)	通学(距離、安全面)
その他(自由記述)	その他(自由記述)
【A案、B案以外の案】 ※理由をご記入ください。	

問6 今後の教育環境に求めるものに「○」を付けてください。(「その他」も含め5つ以内)

異学年との交流、異学年集団での共同学習や体験学習の充実
きめ細やかな指導体制
グループワークやディスカッションなど、協働的な学びの場の充実
クラス替えができる規模の学校での教育
ICTを活用した教育の充実
STEAM教育(理科や数学に加え、アートや体育など多彩な科目の学習)などの新しい教育の推進
特別支援教育の充実
いじめ予防と相談体制の充実
不登校児童生徒への支援
児童生徒一人一人の心身の健康への配慮
特色のある学校行事の実施
通学時の安全対策
学校運営に地域住民や保護者が参画し、地域全体で子どもたちの成長を支えるコミュニティースクールの活用
教職員の資質・能力の向上(指導方法の工夫・改善)
学校施設整備の充実
図書室、多目的スペースなど共用施設の充実
地域コミュニティの核として、防災・保育・福祉・交流の場等の機能拠点
その他()

問7 白須賀地区のこれからの小中学校に関してご意見等ありましたら、ご記入ください。

3. 白須賀地区学校再編検討委員会

白須賀地区学校再編検討委員会は、令和5～7年度にかけて計6回実施しました。
詳細の実施日程については以下の通りです。

第1回	開催日時	令和5年10月19日(木)	午後3時～4時30分
	会場	湖西市役所3階委員会室	
	参加者	25名(委員10名/事務局6名/傍聴者9名)	
第2回	開催日時	令和5年11月24日(金)	午後3時30分～4時30分
	会場	南部構造改善センター	
	参加者	40名(委員10名/事務局4名/傍聴者26名)	
第3回	開催日時	令和7年7月23日(水)	午後2時30分～4時30分
	会場	南部構造改善センター	
	参加者	25名(委員9名/事務局5名/傍聴者11名)	
第4回	開催日時	令和7年9月8日(火)	午後2時30分～4時30分
	会場	湖西市役所3階委員会室	
	参加者	22名(委員9名/事務局5名/傍聴者8名)	
第5回	開催日時	令和7年12月24日(水)	午前10時30分～12時10分
	会場	湖西市役所3階委員会室	
	参加者	28名(委員7名/市/事務局5名/傍聴者15名)	
第6回	開催日時	令和8年2月25日(水)	午後3時～16時55分
	会場	湖西市役所3階委員会室	
	参加者	25名(委員9名/事務局5名/傍聴者11名)	

4. 保護者、地域住民との意見交換会

白須賀地区における保護者、地域住民との意見交換会は、令和4～6年度にかけて計13回実施しました。詳細の実施日程については以下の通りです。

実施日	実施場所	参加人数
令和4年6月1日	地域住民（南部構造改善センター）	16人
令和4年7月1日	保護者（白須賀小学校）	9人
令和4年9月27日	地域住民（南部構造改善センター）	20人
令和5年1月18日	地域住民（南部構造改善センター）	19人
令和5年4月22日	保護者（白須賀小学校）	89人
令和5年6月13日	地域住民（南部構造改善センター）	23人
令和5年6月13日	保護者（白須賀小学校）	66人
令和5年10月12日	保護者（白須賀幼稚園）	10人
令和6年2月1日	保護者（白須賀小学校）	64人
令和6年2月27日	保護者（白須賀幼稚園）	4人
令和6年10月19日	保護者（白須賀小学校）	34人
令和6年11月15日	保護者（真愛白須賀こども園）	3人
令和6年11月24日	地域住民（南部構造改善センター）	36人